

# TOP インタビュー

全国の北海道ファンとともに  
地域を元気にする

## 日本銀行札幌支店 松野 知之 支店長

聞き手

帝国データバンク 札幌支店長 大森 良二



今年5月に就任した日本銀行の松野知之札幌支店長は函館市出身の道産子だ。これまで務めた沖縄県や広島県などでは地域のさまざまなスポットにも足を運び、経営者の声に耳を傾けてきた。初めて勤務する故郷・北海道でもこうした現場主義を貫くと意気込む松野支店長に、北海道経済の現状と課題、そして発展に向けた方策について意見を伺った。

一道内全体の景況感についてどのように捉えられていますか

北海道経済は個人消費関連が回復傾向を示しており、全体としては緩やかに持ち直していると思われる判断をしています。家計の消費行動では光熱費や食料品等の価格が上昇するなかで、一部に家計防衛的な動きもみられますが、外食や近場の観光等が上向いており、プラスとマイナスの要素を比較すれば、プラスが大きいことから、緩やかに持ち直す動きが当面続いてくれるのではないかと考えています。

私は仕事柄、さまざまな地域やエリアに実際に足を運んで定点観察を行うようにしています。例えばススキノは、私が5月下旬に着任したころ、ゴールデンウィークの後ということもあって人の動きが戻り、一次会の早い時間帯であれば人気の

店は満席の様子でした。ただ、これが2次会、3次会の時間帯になると人が減り、夜遅くには寂しい雰囲気になっていました。

それが7月の後半になると、3連休もあり、道内外の方々ガススキノに観光に訪れていたと思いますが、一次会の時間帯だけではなく、深夜帯でも人が多く歩いていました。人気のラーメン店には外まで行列ができていたような状態で、コロナ以前のススキノの姿に近いところまで戻っているのではないかという印象を受けました。

こうした現場で体感した状況からも、個人消費の回復はしっかり起きていると感じています。まさにこれから観光客の方々も北海道により多く訪れていただけるだろうと思いますし、そうしたベースがあるので持ち直しの動きもしっかりとしたものになっていくだろうとみています。

ただし、感染者数の増加は引き続き懸念材料となっています。せっかく良い方向に進んでいる状況に水を差すことにならないでほしいと思っています。

一道外の地域との比較ではいかがでしょうか

日本全体と比較すると、北海道の産業構造は製造業のウエートが小さく、いわゆる非製造業、サービス業のウエートが大きく、観光産業などが基幹

産業の一つとなっています。海外経済に目を向けると、日本以上に早い段階から回復傾向で推移している国もあり、国内においても輸出産業のウエートが高い地域が先行して景気回復の動きを示していました。

ただ、半導体不足や中国におけるロックダウンなどによる世界的な供給制約を受け、そうした地域の回復が足踏みをしていたこともあり、北海道の景気回復が全国に追い付いてきたと捉えています。

われわれの短観のデータを見ても設備投資計画については積極的に取り組む傾向が示されていますので、こうした前向きな動きをしっかりと続けていくということが、持ち直しの流れを維持する上では大事だと認識しています。

#### 一道内の産業について注目されている点は

コロナの影響が徐々に緩和されてくるなかで、北海道の基幹産業の一つである観光業の動向に注目しています。これからコロナが収まっていけば旅行需要はさらに高まりますし、北海道は海外の方たちにとっても魅力的な観光地ですから、インバウンドも段階的に戻ってくるのが期待されます。

観光客数が増加すれば、当然必要となる働き手の数も増えますが、人材の確保に苦労されている事業者もいるなかで、どうお客さまに満足いただける北海道旅行を提供し、リピーターを増やしていけるかが大事なポイントになると思います。

いまの時代、SNSの口コミ評価が国内外で非常に重要視されています。海外の方々も北海道観光の目的地についてSNSで情報収集をされていますし、意外と日本人が気づかなかった場所が人気を博したりもします。

コロナ前のインバウンドが伸びていた時期は、メジャーな観光地はすごく混雑していました。にぎわうこと自体は良いことです。一方で私は那覇や広島で支店長を務めていた際、それぞれで遠出を必要とせず、近場だけと現在はマイナーになっ



ているような観光地を進んで見に行くようにしていました。そのような観光地はどちらかというと、昭和の頃は非常に栄えていた場所が多かった。逆に言うと、素晴らしい風情を楽しむことができますし、単に歴史的な建物があるとか、美しい景勝地があるといったことだけではなく、伝統的な食品や工芸品を見学できる場所に行くと、とても良いストーリーが聞けたりもします。

感染症が拡大し、旅行すらできない時期もありましたが、徐々に需要が回復するなかで日本各地の近場の観光地が見直されてきています。それぞれ国内外の方々にSNSを通じて魅力発信をしてもらえるようなことがあれば、再び輝きを取り戻せるような観光地も出てくるのではないのでしょうか。

#### 一北海道内に限れば、札幌とそれ以外の地域で格差があるように思います。この課題については何か考えられていることはありますか

まず札幌エリアについては全国的に見ても有数の大都市ですし、街の魅力としても非常に高いものがあります。街の強さを生かした取り組みが今後、ビジネスの面でも幅広い業界から多く出てくるでしょう。

札幌以外の地域は人口が回復してくればよいのですが、なかなかそういった前提で将来を展望することは難しいのが現状です。例えば先ほど申し上げたように、近距離の観光地について再評価していくということが活性化のチャンスにつながると思いますし、脱炭素に向けた取り組みにおいても広大な北海道は活用の余地が大きいと感じて

います。

あくまで私個人の見解にはなりますが、再生可能エネルギー発電の拠点をつくるだけでなく、SDGsや環境保護というテーマについて学べる場も整備するといった仕掛けづくりが大事だと思っています。産業施設と教育施設、観光施設を組み合わせ、さらにそこに住む方たちや働く方たち、国内外から訪れる方たちの交流も推進していく。全国各地を見てきて私自身が感じているのは、交流の大切さです。交流が地域のファンを増やし、街ににぎわいを生むと考えています。道内各地でそうした取り組みが活発化することを期待していますし、私自身もファンになれる場所を見つかることができたらいいなと思っています。

#### ―農林水産業も北海道の重要な基幹産業です。ここに期待することは

北海道には素晴らしい農林水産関係の製品があり、人々を惹きつけています。例えば水産業でいうと、育てる漁業の推進などによって今まで以上に安定的な供給が実現し、物流体制の強化やサプライチェーンの確立が進めば輸出産業としてさらなる成長も期待できます。

農業では、これも言われて久しいですが、6次産業化はまだまだ伸びしろがあると思います。水産業と同じく物流体制の進化によって海外のマーケットも見えてくる。実際、コロナ禍前も海外の富裕層を中心に北海道の一次産品は高く評価されていました。チャンスは引き続きあると考えています。林業もそうです。北海道には家具産業もあり、工芸品も含めて海外市場にチャレンジする方がもっと出てきてもいいと思っています。

北海道の一次産業は自然の恵みだけで高い競争力を持っています。さらに付加価値をつけ、ブランディングやプロモーションを強化していけば鬼に金棒です。

#### ―金融機関にはこれからどのような役割が求められると考えていますか

ウィズコロナ、ポストコロナに向けて新しいビジネスモデルにチャレンジしようと考えている企

業も少なくありません。一方で原材料価格の高騰などによって収益的には逆風が吹いている方も多くいる。これまではゼロゼロ融資などコロナ禍に対する各種の施策が講じられてきて、全体としてみればまだ企業金融の状況は落ち着いているとみえています。

これからの局面で金融機関側には、それぞれのお取引先との対話を通じた情報共有を基本に、必要な資金面のサポートはもちろん、それ以外のさまざまなコンサルティングを提供する役割が求められます。事業再構築や事業承継、人材確保など、各企業の課題は多岐にわたります。金融機関というのは道内外に幅広いネットワークを持っていることが強みですから、それを生かしながらかお取引先のニーズに応えるサービスが提供されることに期待していますし、私どもとしても金融機関と意見交換をしながらそうした取り組みを後押ししていきたいと考えています。

#### ―道内の企業経営者に向けたメッセージをお願いします

以前の勤務地で知り合った経営者などに今回、北海道に転勤することを伝えると、多くの方々から「北海道いいね」と言われました。さらには北海道の方たちと一緒に何かできないかという意向を持っている方も少なくありませんでした。コロナ禍の影響や原材料高など、北海道のみなさまと同じ悩みを抱えている経営者は全国に多くいます。そういう方々と一緒にチャレンジすれば、道外、または海外の新しいマーケット開拓など成長のチャンスが見つけれられるかもしれません。

私自身もこれまでの経歴を生かしながらか橋渡し役として何かお手伝いのできたらいいなと思っていますし、道内外の仲間とともに北海道がより元気になっていくように努力していきたいと考えています。

#### ―本日はありがとうございました

※撮影時のみマスクを外しています